

2024-25年度クラブ目標

創立1986年

『思いやりがある 感謝のロータリー』



会長 阿部 克弘
幹事 十文字 光伸



第1840回例会

2024-25年度国際ロータリーテーマ

令和7年2月6日 (12:30~13:30)

○ソング

- 君が代
- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 阿部克弘会長(本日は近藤様、福岡様、卓話をいただき有難うございました。)
- 十文字光伸幹事(1月30日は3ロータリー合同新年会に多数、ご参加預りありがとうございました。又、本日は白河市建設部文化財課近藤様、福岡様、卓話ありがとうございました。先週と今週分合わせてスマイルします。)
- 金田昇会員(白河地方の観光の要の小峰城の整備を楽しみにしています。)
- 永野文雄会員(市、文化財課の近藤様、福岡様ありがとうございます。久しぶりの大雪です、ご安全に!)
- 関谷亮一会員(本日は清水内についての卓話ありがとうございました。屋根瓦の寄附のご協力お願い致します。)

【今週の仮メイクアップ会員】

●2月2日 IM

阿部克弘、運天直人、兼子聡、金田昇、十文字光伸、鈴木孝幸、関谷亮一、永野文雄、沼田重一、藤田龍文、村上堅二、諸橋和典、矢田部錦四郎、山口治、吉成真五郎、渡部勝也、西山よしえ

●2月2日 新会員セミナー

佐藤弘、十文字光伸、鈴木孝幸、高畠裕、吉成茂、高木久美子、西山よしえ

2月6日 ~本日のメニュー~

- ・蒸し帆立とブロッコリーの塩炒め
- ・白味噌と豆乳の餅巾着煮
- ・ヤンニョムチキン
- ・白河産コシヒカリ
- ・なめこと豆腐の味噌汁
- ・香の物
- ・フルーツ二種

▶第1840回例会出席状況

(R7年2月6日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	54名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	19名
Ⓓ 全正会員数	73名
Ⓒ Ⓐの出席者数	18名
Ⓔ Ⓐのメイクアップ者数	0名
Ⓕ Ⓑの出席者数	12名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	30名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	66
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	45.4%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30~19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

阿部克弘会長

皆さん、こんにちは。本日は、最強寒波が今日本に来ておりまして白河も雪が降りました。足元の悪い中お集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。今日もよろしくお願ひしたいと思います。それでは、まず初めに本日のお客様を紹介させていただきます。白河市役所建設部文化財課主任主査兼主席整備係長のコンドウヒロフミ様です。続きまして、同じく建設部文化財課主席整備係主事、フクオカリョウタ様です。本日の卓話は、歴史文化研究愛好会担当例会になりまして、今、工事が進められております白河小峰城清水門の概要につきまして、後程詳しく卓話をいただければと思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。また、瓦の件も後程寄付の件もありますのでそちらも併せて皆様に話があるかと思ひますので、よろしくお願ひをしたいと思います。先般、3ロータリー合同新年会が開催されました。大変白河西ロータリークラブからも多数のメンバーさんが集まっていたいただきましてありがとうございました。また、2月2日に行われましたインターシティミーティング、IMですね。IMのほうにも参加をいただきました会員様の方には厚く御礼申し上げます。また、2月18日、今月なんですけど姉妹クラブさんの深谷ノースロータリークラブさんに公式訪問がございます。まだ、参加の募集はしておりますので、是非行かれる方は奮ってご参加をいただければと思ひます。あと、ホームミーティングの案内も皆様の所にはもう行ったかと思ひますので、是非多く参加をしていただいて懇親を深めていただければなというふうに思っております。今日も、これから卓話もございます。そして、『ロータリーの友』の読みどころ見どころも発表がございますが、今日ちょっと見ましたら『ロータリーの友』の真ん中辺くらいに、いつも川柳、和歌、俳句の出ておりますけども、なんか今回は募集をしてみたいんですね。昔ですね、以前に若くしてちょっと亡くなりました三瓶会員さんが委員長をされている時にその募集をされたんですね、俳句かな。川柳か、川柳の募集をされた時に私応募をしたら、それが採用されまして『ロータリーの友』に載ったという経緯がございますので、是非『ロータリーの友』という

のは見るだけではなくて、そういうふうに『ロータリーの友』事務所のほうのそういう情報、多分いろいろ探してるんじゃないかと思うんですね。ですから、こちらからそちらのほうにそういう情報を与えるということも多分大事なことで、近々後程発表があるかと思うんですが、盲導犬の応援プロジェクトのそういう事業ですか、それから次年度は40周年、次々年度はガバナー輩出年度というふうになりますので、そういう情報もこちらから発信をするということもこれは大事な事なんじゃないかなというふうに思っておりますので、是非そういう『ロータリーの友』なんかも情報発信の一つに捉えていただければというふうに思ひます。なかなかそういう取材とかそういうことも難しいのかもしれませんが、そうところを活用して白河西ロータリーをアピールしていくということも大切かと思ひますので、皆さんにお願ひ申し上げまして会長の時間といたします。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

■幹事報告書

- ロータリー文庫運営委員会委員長 野性司義光：文庫通信のご案内
- 国際ロータリー理事 水野巧：カルガリー国際大会RI理事主催親善朝食会についてのお願
- カルガリー国際大会推進チームメンバー兼推進コーディネーター 服部洋子：「カルガリーハット販売のお願ひ」
- 日本事務局 業務推進室：平和構築と紛争予防月間リソースのご案内
- ガバナー 早川敬介：国際ロータリー第3530地区公式キャラクター名募集延長のご案内
- 白河市倫理法人会長 渡辺義信：令和7年度「倫理経営講演会」名義後援のお願ひ
- 米山記念奨学会委員事務所局長 峯純子：確定申告用領収書送付の件
- ロータリー日本財団：確定申告様寄付金領収証についてのお願ひ
- ロータリーの友事務所代表理事 高野孫左衛門：2025-26年度ロータリー手帳お買上のお願ひ
- 白河市国際交流協会会長 内藤義久：「白河市国際交流協会会報VOI. 28」の送付について
- ガバナー 早川敬介：地区チーム研修セミナーのご案内

■各委員会報告

●親睦活動委員会

沼田重一委員長

皆さん、こんにちは。親睦活動委員会からお知らせいたします。先程、会長のほうからのご案内ありましたように、第2回のホームミーティングを開催いたします。昨日、皆様にご案内差し上げておりますので、もう一度確認お願いいたします。それと、班長になられた方はひとつ段取りのほうよろしくお願ひします。そして、来月の6日、13日に発表会を行いたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

●雑誌広報委員会

緑川直人副委員長

皆さん、こんにちは。雑誌広報委員会より、今月2月号の『ロータリーの友』の見どころをご説明させていただきます。まず、横組みの8ページを開いていただきまして、こちらジョージ・武井さん。スタートレックとかに出ていた俳優さんで、いろいろ戦争に翻弄された半生を送られましてその後LGBTQ、こちらのほう自分がゲイであることを告白いたしまして、それに関しての活動を行っておられます。続きまして、縦組みのほうで9ページをお開きいただきまして、久留米中央ロータリークラブの曾さんの記事が載っております。こちら中古の部品とか、そういった販売をされて素晴らしい活動をされている方なんですけど、この記事の中で石原慎太郎都知事の時のディーゼル規制の時、うちもひどい目に遭ったんで、それ思い出してちょっと苦い思いを思い出しました。あととはご覧になってください。以上でございます。

●社会奉仕委員会

山口治委員長

皆さん、こんにちは。社会奉仕委員会からのお知らせということで、今年度、阿部・十文字年度の目玉事業ということで位置付けてあります「盲導犬応援プロジェクトin白河2025」のポスターとチラシが完成しましたので、そちらの入り口出口のほうにポスターとチラシがもう出来上がっておりますので、皆さんで帰りに持って帰っていただいて目立つ所に張っていただく。あとは、見ていただいて持って行っていただく

という形でひとつPRのほうに貢献していただきたいと思っております。一応、再確認という形で日時はですね、今年の3月22日の土曜日、PM1:00と、AMではありません。AMだと夜中ですから。場所は自信ビル、イベントホールということで行われます。あと、各種いろんな団体からの協力。あと、福島県白河市、西郷村等の後援も沢山いただいております。それと、十文字会員のお計らいでTUFとか他の地方局のインフォメーションコーナーのようなところで、無料での事業案内という形で放送していただけるという流れにもなっています。あと、白河市、西郷村も町の掲示板ですかね、そちらのほうにも貼っていただけるというふうなこれも流れになっております。あと、学校関係なんですけどこれは一応社会奉仕委員会を中心にお願ひして学校にポスターを貼っていただくお願ひをしていくというふうなちょっと大変な事がまだあるんですけども、その辺は何か社会奉仕委員会で担当して協力して進めていきたいと思っております。ということで、現段階においてポスター、チラシが出来ましたので、皆さん宣伝のほうPRのほう、よろしくお願ひしますということで、以上社会奉仕委員会からのお知らせということです。失礼しました。ありがとうございます。

■本日のプログラム

○歴史文化研究愛好会担当例会

●歴史文化研究愛好会

関谷亮一会長

皆さん、こんにちは。只今、SAAのほうから紹介ありましたが、本日は歴史文化研究愛好会のこの取り組みをプログラム委員会のほうで取りあげていただきまして、本当にありがとうございます。白河市といえば、小峰城にある三重櫓が非常にシンボルになっているわけですが、更に皆さんご案内のように今回、清水門の建設が行われるわけですが、その建設が行われますと更にこの白河のシンボルというものが目新しく皆さんにインパクトを与えるのではないかと。そして、歴史の町白河ということで、その名を更に高めるのではないかと。本日は、白河市文化財課主任主査兼主席整備係長のコンドウヒロフミ様。更には、主席整備係主事フクオカリョウタ様のお二人にお願いいただきまして、この清水門の取り組み等についていろいろ皆さんにお話をさせていただくことになりました

た。よろしくお願いたします。なお後程、市のほうの係の方がお見えになりますが、清水門の屋根瓦にこの皆様からご寄付をいただいて、その屋根瓦に名前を入れてそこに屋根として据え付けるということになってるそうです。詳しくは、後程担当の方からご説明あると思うので、皆様その節は、既にもうご協力をされてる方は別ですが、まだされてないという方は是非ご協力をお願いを申し上げます。では、よろしくお願いたします。

●白河市役所建設部文化財課主席整備係主事 コンドウヒロフミ様

ご紹介にあずかりました白河市役所文化財課のフクオカと申します。本日はよろしくお願いたします。わたくしのほうからはですね、皆様の多大なご協力がありまして、昨年令和6年1月から復元工事に着手いたしました小峰城跡清水門復元整備工事につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。令和6年1月から工事が開始になったんですけれども、実はそれより前の数年の間に沢山の検討がなされて、江戸時代の清水門の姿が一体どういった姿だったのかというところをですね、解明をしてですね、更に文化庁の復元検討委員会という厳しい専門家の方々の先生の委員会を経て承認を受けて、ようやく令和6年1月に清水門復元整備工事に着手することが出来たというようなところになります。本日はですね、そういった工事に至るまでの過程のところをご説明をさせていただきたいなというふうに思います。よろしくお願いたします。まずですね、皆様ご存じだと思うんですけれども、小峰城跡について簡単にご説明をさせていただきます。小峰城は平成22年に国の指定を受けまして、その後平成24年、それから平成26年、そして令和3年の3回に渡ってですね、追加指定を受けております。それですね、範囲は外堀の内側で約54ヘクタールになりまして、その中の本丸、二の丸、それから東側丘陵の約16.3ヘクタールが国の史跡の指定地になっております。小峰城はですね、興国～正平年間頃に結城親朝（ゆうきちかとも）が築城したというふうにいわれておまして、その後江戸時代に7家21代の白河藩の居城として推移をしております。ですが、江戸時代末期の慶応4年の戊辰戦争白河口の戦いで、城内の建物の多くが焼け落ちたりですね、なくなってしまっております。こちらで

すね、小峰城上空から撮った写真になるんですけれども、こちらの赤色の範囲が小峰城の範囲。遺跡として登録されている範囲になります。そしてですね、今回復元を行った清水門は二の丸と本丸を結ぶ門になりまして、高さは約11メートル、間口は14メートルと小峰城の中では最大規模の櫓門、二階建ての門という形になっております。清水門の場所になるんですけれども、二の丸こちらの城山公園の所から中に入って本丸、こちらの間にある門になります。それですね、実際に江戸時代に建っていた清水門は一体どういった姿であったのかというところになるんですけれども、日本国内に残っている近世城郭では、近代以降に建物が建っている状態で古写真が撮られていることがよくありまして、そういったものが残っているとですね、その古写真をもとに建物の復元というところが可能になってくるんですけれども。小峰城に関しましては、先程ご説明させていただきました江戸時代末期の戊辰戦争白河口の戦いでですね、多くの建物が焼け落ちてしまっていて、この清水門も大きなダメージを受けてなくなってしまっております。ですので、この清水門に関しては古写真というものがほぼ確実に残っていないだろうというふうに考えられました。江戸時代のお城の建物を復元するにあたっては、必要となるものが先程ご説明させていただきました古写真とか、それから実際に建物の遺構ですね。建物の柱を支えた礎石等が残っているかどうか。そういったものが確認をされておりますが、この小峰城に関してはそういったものがないので、古写真以外から江戸時代の門の姿を確認することが出来るかというふうに考えました。まずですね、江戸時代に書かれた絵図から清水門がどういった形であったのかというのがわからないかということで検討を始めました。その中でですね、多くの絵図に関しては平面図のような絵図が多かった影響ですね、清水門の姿というものがはっきり書かれている絵図というものがほとんどなかったんですけれども、その中でこちらの白河城櫓絵図と呼ばれる松平定信が作らせた絵図があるんですけれども、こちらの絵図がこちらの写真になるんですが。こちらの絵図ですね、まず真ん中から半分、こちらからこちらの範囲が建物の正面を映した絵図になります。そして、建物の正面とこちら側からこちらの絵図というのが、建物の南北方向の断面になります。そういった正面と断面、そちらの物が一つの図面として残っております。ですので、こちらの絵図から建物の具材がどのように組み立てられていたのかと

ということがわかります。それから、ちょっとこちらのパワーポイントちょっと小さくてわかりづらいんですけども、こちらの柱の所に文字が書かれておりまして、こちらが柱の具材の木の種類であったりとか、それから大きさが一つ一つに書かれております。ですので、こちらの絵図は非常にその建物を詳しく書かれているという資料が一つ残っていたというところがあります。それから、江戸時代の清水門を探るもう一つの方法として、実際に江戸時代の建物の痕跡が残っていないか、そちらを調べる発掘調査というものを市のほうで実施しました。近回の調査ではですね、こちらの真ん中の赤色の所の門が実際あったであろうという所と、それからこの黄色の枠で示しました二階の門がかかる石垣の構造を確認をするために4か所ですね、調査区を設定をして発掘調査のほうを実施いたしました。その結果です。こちらの写真はですね、実際に門があった所を上空で撮った写真になるんですけども。門の柱を支える礎石がですね、11基確認されました。実際にはですね、こちらこの礎石の2番とそれから礎石の8番の間の所にもう1基礎石があったであろうというふうに考えられるんですけども、こちら発掘をしたところですね、下に水道管が通されておりまして、近代以降にこの水道管を通す時にどうやら礎石は抜き取られてしまったということがわかっております。それから、調査をしていく過程でですね、残念ながら江戸時代の後に近代以降に、上面はかなり掘削を受けておりまして、礎石は残っていたんですけども、江戸時代当時の門の地面のほうは残念ながら削られて残っておりませんでした。ですので、残念ながらこの門に伴う当時の生活痕跡の、例えば陶磁器であったりとかそういったものは残念ながらすべて近代以降の壊された土の中からの出土という形になっております。それからですね、礎石の他に門の北側とそれから門の東側に水路を2本確認いたしました。こちらは先程説明した白河城櫓絵図には記載のなかったものになりますので、今回の調査で初めてわかった事実になります。こちらの水色で囲まれた石がですね、水路を構築していた石材になります。こちらの多くの石材はですね、抜き取られていてなくなっているんですけども残っている石材から推測すると、こちらの北側赤い箇所には1本、それから東側に1本あったというふうに考えられます。こちらの清水門はですね、谷部を盛り土して作った門になりますので、水がこの清水門のあたりにこう集まってくるという形になっております。ですので、

本丸側、北側から流れてきた水をこの北側に通っていた水路で受けて、そして東側に通っている水路を通して、この先は残念ながら確認できなかったんですけども、おそらく南側にある清水堀のほうに流していたであろうというふうに考えられています。先程説明した白河城櫓絵図、江戸時代に書かれていた図面が実際にどれくらい正確なものであるのかというところを、実際に今回調査した発掘調査の成果と検証を行ったところですね、この礎石と礎石の間とこの櫓絵図に書かれていた、こちら左側平面図になるんですけども、この平面図の長さですね。長さこちらに書かれているんですけども、こちらをこう合わせたところですね、かなりぴったりと合ったということがわかりました。ですので、こちらのこの白河城櫓絵図というのはかなり正確な絵図であったということがわかりました。ですので、この清水門というのですね、実際に建っていた写真という古写真はないんですけども、この白河城櫓絵図というものが非常に正確な絵図ということが評価をされましたので復元することが出来たという感じになります。続きまして、調査をしていく中でこの門の両側の石垣の所の確認を行っていきました。この門の東側の石垣はこの門の所から一段上がって、そして少し行った所にもう一段上がるという形状をしております。逆に西側の石垣はですね、一段上がった後こちらの左側にある木の所まで平らに続いて、そこからなだらかにこう上がっていくという形状になっております。この現在の形状ですと、東と西が非対称で何か違和感が残っているという状況で、この後説明するんですけども実は古写真等を見ると、こちらの左側の西側の石垣がどうやら壊されているようだということがわかりました。今回、発掘調査で実際にその壊される前の石垣の痕跡がないのかというところを調査を行って確認をしようという形になりました。こちらですね、昭和26年の城山球場建設の時の古写真になります。こちらの右上の所にちょっと小さく石垣が映っておりまして、こちらを拡大するとどうやら東側の石垣と同様にもう一段上がるということが確認できます。それから、こちらは更に古く明治40年から大正6年の絵葉書になるんですけども、こちらですね、古写真を見るとどうやら平らな所から一段上がって石垣が続いているというような状況ではないかということが確認できます。実際にですね、先程の写真の所を発掘調査をしたところ、この土の下から実際にこう南北方向、こちら上側が清水堀のほうでこちらの下側が本丸方面

になるんですけれども、こちらの南側の石垣から南北方向に石垣が下に残ってありました。ですので、この約3.5メートルほど石垣が実はこちらに積まれていたということがわかっております。そして、こちら右側の調査区は実際に石垣の内部のほうを確認をした写真になります。石垣の表面の石、築石（つきいし）と後ろに排水のためにですね、川原石を詰めた層があって、その後ろに盛り土しているというような構造がわかっております。このような検討を受けて、実際に清水門の復元を行っていきこうというふうに市で検討を開始いたしました。平成31年3月の東日本大震災の石垣復旧完了後ですね、翌年の令和2年から清水門復元に向けた検討を開始してまいりました。この検討では実際にその江戸時代の清水門の根拠というものを揃えていったという形になります。そして、翌年の令和3年から令和5年にかけて文化庁の復元検討委員会という外部の有識者の委員会にですね、復元の計画のほうを上げていきまして、復元根拠の妥当性というものが審議をされました。その中では厳しい検討を受けまして、令和5年8月に承認をされまして、令和6年1月から清水門復元工事が着工いたしました。復元整備の基本方針として、まず史実に忠実な復元を行うというものを掲げました。先程も説明いたしました、白河城櫓絵図の絵図資料及び発掘調査成果をもとに、江戸時代の門の姿を当時の姿を忠実に復元をするということを、まず一つ方針として進めております。それから、復元建物の工事に当たって実際にその発掘調査で江戸時代の礎石、それから門を構築していた盛り土が確認をされているんですけれども、こういったものは当時の大事な遺構になりますので、こちらの遺構を守りながら工事を行うというような方針を立てました。こちらの写真の青色の線が実際に確認された遺構になります。それから遺構を保護するために40センチほど盛り土をいたしまして、その上に新たに礎石を乗せて門を構築するというふうに進めております。実際にこれらの検討を行いまして、門の実施設計を行っていきまして。こちらの左側の門は左の図面はですね、門を南側から見た図面。そして、右側の図面はですね、北側から見た図面になります。こちら左側が東側から見た図面になります。清水門は櫓門になりますので、実際に門の両側の石垣の上から当時は建物の中に入れたというふうに考えられております。ですので、この石垣の上にこの梁が乗ってくるような形になっております。それからですね、この清水門の両側の部分は門から実際に塀が

続いていたというふう考えられております。こちらの塀に関しましては、残念ながら実際にその遺構ですね、塀を支えた柱の跡等は見つかってはいないんですけれども、絵図等を踏まえまして景観として復元を行っております。この真ん中の所に門が来て、そしてその門の両側にこう塀が続いてくるんですけれども、この門一番左側の所がちょうど石垣が一段高くなる、先程ご説明させていただきました古写真に残っていたという所になりますので、この石垣があった所まで塀を復元して、そしてこちらの石垣の所に関しましては、本来であれば石垣を古写真のとおり復元することが望ましかったんですけれども、残念ながらこの石垣の下がかなりはらんでおりまして、この上に新たに石垣を復元するというふうになりますと、かなり石垣にダメージを与えるということになりますので、全部の復元をするのではなく、一段だけ石を積んでここに段差があったということを視覚的にわかるような形の復元というものを進めていくとなっております。実際に令和6年1月から復元工事が開始されました。その工事の内容についてはですね、いろいろな形で今後、公開、情報発信というものを進めていきたいというふうに考えております。例えば、今年の6月から8月にかけて発掘調査を行ったんですけれども、この調査成果につきまして令和6年9月8日にですね、発掘現場の公開、現地公開というものを行いました。それから、左側のこちらは東北工業大学の建築、ナカムラ先生という方がいらっしゃるんですけれども、そちらの研究室の方と連携をいたしまして、復元工事の情報を伝えるかわら版というものを3か月から4か月に1回ほど作成をしております。こちらのかわら版に関しましては、清水門の復元工事のバリケードとか仮囲いの壁面に掲示をしております。それから、こちらちょっと後程担当の者からご説明があるんですけれども、実際に清水門に葺く瓦に名前を書くというようなイベントをやっております。最後にまとめさせていただきます。小峯城清水門跡はですね、残念ながら古写真は残ってはいなかったんですけれども、非常に正確な白河城櫓絵図と呼ばれる絵図資料。それから、発掘調査成果によって礎石が残っていたということから、江戸時代の姿を復元することが出来るようになりました。今、行っております清水門復元工事はこういった調査研究成果をもとに史実に忠実な復元整備を行っております。今後はですね、こういった復元工事と平行して情報発信を行いまして、市民の皆様と一緒に復元工事のほうを

進めていきたいというふうに考えております。長くなりましたが、私からのお話は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

〇〇

質問はいいですか。

コンドウヒロフミ様
はい、大丈夫です。

〇〇

私の記憶では小峰城に登るには〇〇から登らないといけない〇〇確か。〇〇。その辺はどうなんですか。

コンドウヒロフミ様

はい、えっとですね、まず清水門側はもちろん入れなくなって、清水門の西側ですね。ちょうど城山公園の所に二ノ丸茶屋と呼ばれるお茶屋さんがあったその向かい側、西側の所に今、仮設階段を設置いたしました。そちらの階段から本丸にまずひとつ上がることが出来ます。それから、ちょっとこちらは遠くなるんですけども、裏側ですね。小峰城の北側に矢之門（やのもん）と呼ばれる門の入り口がありまして、そちら側から令和4年4月にもともとバラ園があった帯曲輪（おびくるわ）といわれるエリアの整備が完了して、実はその北側の矢之門のほうからぐるっと回ってですね、本丸のほうに上がることが出来るようになっております。

〇〇

じゃ、すみません。あともう少し時間頂戴いたしまして今、市のほうで進めております「一石城主プロジェクト」ということで、「一石城主プロジェクト」とあと「瓦記名会」ですね。先程説明あった「瓦記名会」について担当の者から説明させていただきます。よろしく申し上げます。

●白河市役所文化財課

コバヤシ様

皆さん、こんにちは。私、文化財課のコバヤシと申します。本日、清水門のお話をするというので、現在文化財課で清水門に関して二つの事業をちょっとPRさせていただきます。よろしくお時間頂戴してま

す。よろしく申し上げます。まず、チラシのほうお配りしますので、少々お待ちください。すみません。それでは、チラシのほう皆様のお手元に届いてますでしょうか。それではですね、簡単にPRをさせていただきますと思います。多分、先程清水門のほう説明があったかと思いますが、清水門の復元工事を実施しております。一応令和8年度中の完成を目指して行っているところでございます。清水門の復元事業に当たりまして文化財課のほうで二つの事業を今募集しているというところで、まず初めに「小峰城一石城主」募集のチラシということで、こちらは令和2年から当時この復元を始めるという時に「一石城主プロジェクト」というものを起ち上げまして、当時白河藩最大であった15万石にかけて、1億5千万を目標にスタートしております。現在大体90パーセントくらいの皆様のおかげをもちまして90パーセントのご寄付をいただいております。残りですね、あと完成まで残りわずかとなっております。目標まで残り1千2百万ですかね、約。というところまで来ております。皆様に当然ながらご協力をいただいております。大変恐縮ではありますが再度ご協力をお願いということ。今日PRさせていただきます。二つ目といたしまして、瓦記名参加者募集ということで別チラシをご覧ください。こちらにはですね、令和6年昨年度から実際に清水門に使う瓦に名前とかメッセージをいただいて、それを工事で使って清水門に記念として残すというような記念的なイベントとなっております。こちら若干ちょっとお金はかかってしまうんですが、工事来年ですね、令和6年度実際その瓦に書くイベントは昨年度2回行いまして、現在は直接瓦に書く機会ではなくて、こう記名シールといった形でシールにメッセージを書いていただいて、それを私たちのほうで瓦に張るというようなイベントで、イベントに参加できなくても申し込みを受けて参加できるというようなことで、このようなチラシで募集を行っております。こちらはですね、来年度また再度直接瓦に書く特設の記名会も2回ほど予定はしたいとは思いますが、イベント等に出ることもありますので是非このシール等で参加いただければ日程ともなく参加申し込みができるというような形で募集しております。こちら実際にその瓦を使う来年多分10月頃まで募集して、それ以降瓦の瓦葺きが行われますので、それまでの記念イベントということになっております。是非、記名していただいて次の瓦の葺き替えくらいまでは名前が残るの

ではないか。多分100年とか、そのぐらいは次のところまでは残せるイベントとなっておりますので、是非ご協力いただきたいということで、本日お時間を頂戴しました。詳しい内容につきましては、チラシをご覧くださいまして、それぞれ申し込みをいただければと思います。記名シールにつきましては、今1枚3,500円ということで、こちら郵送でのやり取りを想定してまして、郵便で送って返してもらってとかっていうやり取りを想定しての3,500円となっておりますが、市の文化財課窓口で直接来ていただければ、郵送のやり取り発生しないような形で郵送分の料金ですね、500円引いて特別価格3,000円ということで今受けておりますので、是非ご検討いただきたいと思います。本日はすいません。貴重なお時間いただきましてありがとうございます。よろしく願いいたします。

■閉会点鐘

阿部克弘会長

本日は貴重なお話ありがとうございました。私、福島出身なもんですから、福島にはお城がないんですね。三重櫓を初めて見た際に、最初あそこがお城かなというふうには思ったんですが、櫓だっというふうにお聞きしまして、でもやっぱりお城がない所からすると、すごく素晴らしい文化財だな、貴重な遺産だなというふうには私は思っておりますので、いつまでもですね小峰城が、輝けるようなそのような小峰城でいていただければというふうに思っておりますので、どうか引き続き頑張っていただければなというふうに思っております。本日はどうもありがとうございました。